

法律学科 ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) 及びアセスメント・ポリシー

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー		
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	西南学院の建学の精神に基づき、西南学院大学学則第一条に定める目的を実現し、学生が卒業認定・学位授与方針に定める資質・能力を身につけることを目指して、正課においては、大学教育における共通基盤及び教養の育成のための共通科目群、学位課程プログラムの基幹となる専門科目群によりカリキュラムを編成する。 育成すべき資質・能力に照らし、その内容・順次性を吟味し、体系的に科目を配置する。なお、主に「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の育成に寄与する科目は、「総合的な経験・創造性」に寄与する科目に先行するよう配置し、主に「態度・志向性」の育成に寄与する科目は4年間にわたって配置する。	卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いていることにより、その修得状況を把握し可視化する。 また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。	
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。			
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。			
	D	自己の成長と社会の発展のために、自立的に学び続ける態度を身に付けている。			
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法		
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会現象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	主な科目 教養科目
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	主に外国語、情報処理、スタディスキルを中心とした、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データリテラシー スタディスキル ヘルスリテラシー
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライフデザイン応用
D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自立的に真理を探究し続けることができる。	キリスト教やライフデザインを中心とした、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための基幹科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教 ライフデザイン基礎 西南学院史	
第二層 (専攻科目)			A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	
	A-2	現代社会とそこに至る過去を踏まえ、現代社会の実情を把握し、それと関連する法律やその基礎的な概念および理論を適切に認識することができる。	法学全体の基礎およびその根幹をなす現代社会の実情を把握・認識する導入科目を1年次に配当し、それを前提として法学の中核となる専門的知識を理解するための基本科目を1～2年次に配置する。	A-2	基礎演習
	A-3	法学の中核をなす基礎的な概念および理論を理解し、現代社会における具体的な実情に向き合うことができる。		A-3	法律学習の基礎
			B	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定する。	
	B-2	法学のより高度な概念および理論を現代社会の実情に適用・応用する過程およびその結果を明確に提示することができる。	法学の高度な知識を修得し、それをを用いた法的思考・法的解釈を提示するための基本科目および専門演習(演習・実務関連科目)を2年次に以降に配置し、国内外の社会の実情を理解し、法的思考・法的解釈を異なる視点から比較するための国際関係法・政治学科目を2年次に以降に配置する。	B-2	行政法総論
	B-3	法学の概念および理論を幅広く学び、それらを現代社会の実情に適用・応用するため、複数の視点から比較検討することができる。		B-3	企業取引法
			C	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	
	C-2	変容する国内外や現代社会の諸現象に関する課題を理解し、自らその解決に向けて法学の概念および理論のみにとらわれない広い視野と批判的見地から検討することができる。	法学の概念・理論を前提として、2～4年に国内の先端的な法的問題を理解・解決する力を身につける発展科目および専門演習(演習・実務関連科目)を配置し、この問題の理解・解決を諸外国の法制度や政治など幅広い見地から行うための国際関係法・政治学科目を2年次に以降に配置する。	C-2	外国法政
	C-3	変容する国内外や現代社会の諸現象の課題を解決するため、あるべき社会を展望して新たな秩序を形成することへ、法学のみにとらわれない広い視野から能動的に参与することができる。		C-3	専門演習II
			D	各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	
D-2	人権意識・道徳意識と倫理観を備え、公平・公正な観点から社会における多様性を受容し、現代社会の諸現象に敏感に反応するための成熟した資質を身に付け、行動することができる。	法学の概念および理論の社会における運用(実務など)を知るための応用法律学および実務科目(演習・実務関連科目)を配置し、さらに、実務という社会現象に多様性を理解しううえで応じる成熟した資質と国際的な障壁をいわずに他者と積極的に関わる力を身につけるための外国語に関する科目を配置する。	D-2	応用法律学	
D-3	地域社会や国際社会を基礎づける多様な価値観に基づき、独立した個人として、自ら進んで学ぶ高い意欲を身に付けて、適切にかつ積極的に市民社会を担うことができる。		D-3	ビジネス実務から見た法学/行政実務から見た法学	